

## 集会アピール

私たちは今日、駿府城公園に集い、「浜岡原発再稼働を許さない、守ろう環境！ふやそう再生可能エネルギー」を改めて確認しました。

菅新政権がスタートしましたが「安倍政権の取り組みを継承」としており、これまでの原発優遇、原発再稼働推進の政策をも引き継ぎを表明しました。まず実施しようとしたのは、福島事故汚染水の海洋放出。地元自治体や静岡県漁連はじめ全国漁協から反対の声が上がりました。政府はその声に押され閣議決定は延期しましたが、まだまだあきらめたわけではありません。私たちは福島の方々と連帯して全国で放出反対の声をよりいっそうあげていきましょう。

国会施政方針演説で、2050年までに温室効果ガスの実質ゼロについて、原発再稼働で対応すると同時に『新型革新炉』を含めた技術開発等は進めていくことを明言しました。再エネ普及の具体策は今のところなく、原発再稼働は強まります。野党が共同して提出した「原発ゼロ法案」の実現により、原発から再エネへの抜本的転換、地域資源を収奪し環境壊す再エネではなく地域循環型経済、環境との調和めざす再エネ・省エネの流れを実現させましょう。

女川原発の再稼働について、地元の宮城県議会は、早期の再稼働を求める請願を採択し、これを踏まえ、村井嘉浩知事は再稼働への同意を11月中にも表明するとしています。女川は浜岡と同じ沸騰水型の原子炉であり、柏崎刈羽原発も含めて浜岡原発への影響は大きくぜったい許してはなりません。

一方浜岡原発の再稼働審査に目をやれば、中電側の「ヤマ場に差し掛かっている」発言とは裏腹に、基準地震動や基準津波高を算出できず審査は続いていきます。にもかかわらず危険な核燃料を浜岡原発内に運び入れるとは許せません。

一方、住民の命を救えない避難計画では再稼働させるべきではないとの世論が急速に高まっています。危険な屋内退避は、木造家屋では放射能の大部分が防げず、特に津波に襲われ、断続的な地震で家屋倒壊の危険が重なり、静岡県は全国一屋内退避をしてはいけなるところと言わざるをえません。

全国的に地元の同意によって原発再稼働にストップをかけるルールがつくられています。東海第二原発の新安全協定、柏崎刈羽原発の3つの検証委員会でも地元の同意を実質的にしばっています。

静岡県では22万の再稼働反対の署名など県民の声によって、川勝知事が「私の任期中は再稼働を認めない」とした到達を得ました。来年はいよいよ県知事選挙、選挙の中で原発再稼働に反対する世論を高め浜岡原発の再稼働を認めない県知事の選出に全力をあげましょう。また知事選は静岡県原発再稼働に歯止めをかけるルールをつくる大きなチャンスです。県民の命を守る県知事選にしていきましょう。

世界一危険な浜岡原発の再稼働を絶対に許してはなりません。

電気は足りている、足りないのは愛だ。

2020年浜岡原発の再稼働を許さない！11・15ひまわり集会 in しずおか参加者一同